



特定非営利活動法人

そだちの樹

ニュースレター

Number 5

Published on May. 10, 2016

〒810-0042

福岡市中央区赤坂1-2-7 みずほビル303

TEL : 092-791-1673

FAX : 092-791-1674

URL : <http://sodachinoki.org/>



理事長からのご挨拶

そだちの樹では、2012年に子どもシェルター「ここ」を開設し、2年間にわたって居場所のない子どもたちの支援を行ってきました。この間に巣立っていった子どもたちの中には、今でも引き続きかわりをもって見守りをさせていただいている子も複数います。

残念なことに2014年3月末をもって、福岡市から受け取る措置費の制度上の問題から運営費に大幅に不足が生じる見通しとなって「ここ」を閉鎖。今日まで、その再開の目途が立っていないというのが現状です。

しかしながら、この間、居場所を失って自宅に帰れない子どもたちはどんな支援を求めているのかを調査し、自分たちが何ができるのかを模索してきました。

そうした中、2015年4月から「ここライン」という相談窓口を開設しました。スタッフが電話とメールで連絡を受け、その後、面談による相談を行ったうえ、一緒になって解決に向けて行動する。シェルターのような箱物はないものの、単に訴えに耳を傾けるだけでなく、一緒に行動する。そだちの樹が培ってきたノウハウを生かして、この1年で71件の相談を受けることができました。

この活動を行っている時に、福岡県から児童養護施設や里親家庭を巣立った後の子どもの支援を行ってもらえないかという話をいただき、2015年11月から「退所児童等アフターケ

ア事業」を開始しています。2015年度は、ある施設の子どもたちと一緒に汗を流した後、将来に向けての貴重な話を聞く企画を設けるとともに、県内の児童養護施設を訪問して、施設が退所後の子どもたちのために何を必要としているのかを伺いながら、全国でも先行するアフターケア事業の諸先輩の実践を学んでまいりました。2016年度も引き続き、「ここライン」を活動の柱として、子どもの支援にかかわっていきます。

現在の活動は、私たちの法人が当初目指したシェルターの運営とは異なりますが、居場所のない子どもたちがたくさんの大人たちの愛ある支援を受けながら、社会の中で自立することを下支えするという点では共通するものだと考えています。今後も、私たちの活動を発信してまいりますのでご支援のほどよろしく申し上げます。

(理事長 橋山吉統)



相談支援の現場から

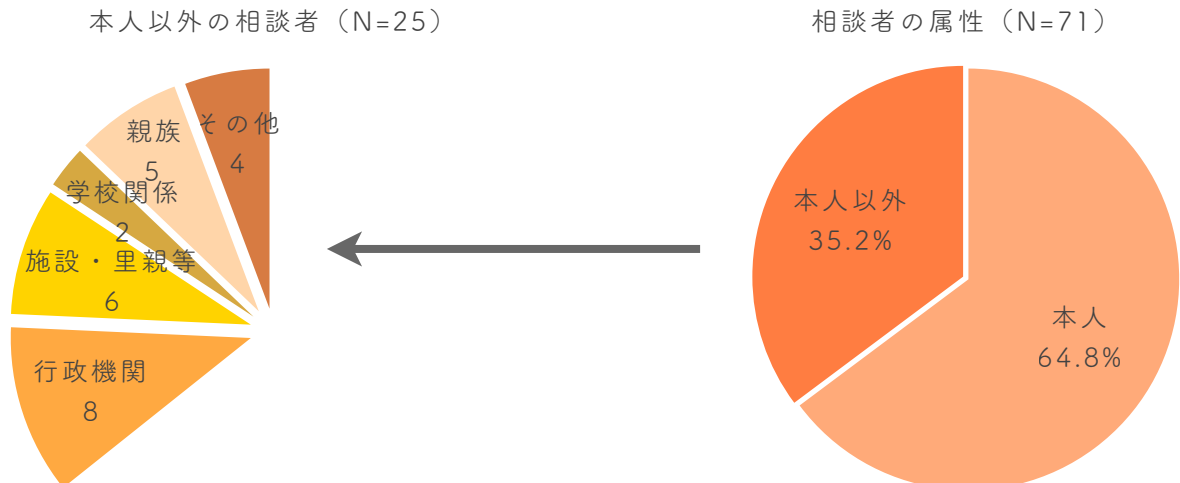
2015年は、4月に相談窓口「ココライン」を開始し、11月からは福岡県施設退所児童等自立支援促進事業（アフターケア事業）を受託し、相談事業が充実した1年でした。2016年3月末日現在で、ココラインへの相談件数は延べ71件と、着実にその件数を伸ばしています。

ココラインの相談件数

(2015.4.1-2016.3.31)



相談者の属性



○生活・・・「止められたガスの再開方法が分からない。」といった日常生活の困りごとから、「今、家にいられず出てきたけど、行く場所がない。」といった緊迫したもので様々な相談や質問が寄せられます。

○その他・・・「アパートの取り壊しで部屋を追い出されそう。」「借金をしてしまったけど支払が滞っている」等の法律相談も寄せられています。継続して法的対応が必要な場合は別途弁護士をご紹介します。

○就労・・・「就職が決まらない、何が悪いんだろうか。」といった悩みや、「住居が分かる書類って何を持って行けばいいんですか。」といった相談が寄せられます。

(スタッフ 山崎千香子)

「ここ」食堂はじめました。

2016年、ここラインの運用開始から遅れること2か月ほど経ったころ、「ここ食堂」を始めました。ある食べ盛りの若者の「食に困っている」という声から、定期的に食事会を開催することになり、そだちの樹のネーミング課長が「ここ食堂」と命名したものです。ここ食堂では毎月第3火曜日に事務局フリースペースにて食事会を開催しています。また、レトルトカレー、カップ麺の配給（1人1回10食まで）も行っています。食数に限りがありますので詳細はスタッフまでお尋ねください。



(スタッフ 山崎千香子)



卒業のご挨拶

こんにちは。ここラインスタッフ兼事務局スタッフの山崎と申します。私ごとですが、この度、一身上の都合でそだちの樹を卒業する（巣立つ？）ことになりました。そこで、この場をお借りしてご挨拶させていただきたいと思います。

思えば、昨年4月にここラインを開設し、先にご紹介したようにさまざまな相談が舞い込んできました。例えば目に見える困りごととして家賃滞納や借金の相談等いろんな困りごと

が挙げられます。また、多くの相談には親や家族との関係上、家にいられない、という内容が含まれますが、これらの相談に共通する背景として、社会生活を送る中で孤立している、という背景があるように思えてなりません。

社会に巣立った若者が「こんなこと誰に相談したらいいのかな?」「こんなこと、聞いたら非常識って思われませんか?」という不安の中、なんとかここラインまでたどりつけてくれるのが現状です。私は、ここラインを通して改めて「皆、様々な事情を抱えながら、社会の中で懸命に生きぬいているのだなあ。」と感じています。ともに悩みながらも、相談者が懸命に生き抜いているその姿に、勇士を感じています。相談者の多くは、これから社会を支えていく人たちです。そんな若者たちとそだちの樹が、細く長く、そして太く長く繋がっていけたら、と思います。4月からは岩永さんという頼もしい幹を中心に、そだちの樹が大木に育つことは間違いありません。私は、スタッフとしては卒業しますが、今後も、そだちの樹の小枝、葉、土や肥料となって関わっていきたいと思っています。

1年と言う短い間でしたが、大変お世話になりました。力不足の私でしたが、橋山理事長、安孫子事務局長をはじめ、会員の皆様、理事の方々、関係機関の皆様に支えて頂き、安心して相談に従事することができました。どうもありがとうございました。

(スタッフ 山崎千香子)



新しいスタッフから

はじめまして。今年の1月よりココライン兼事務局スタッフとしてお世話になっております岩永と申します。

私は、大学在学中に参加したボランティアがきっかけとなり、精神疾患に興味を持ちココラインに来るまで、精神疾患のある方の就労支援事業所、作業所と呼ばれるところで生活支援員として働いていました。以前の仕事に就く前にシェルターのお話を聞きに安孫子事務局長にお会いしたのが、そだちの樹を含め、児童福祉に触れたきっかけでした。今回山崎さんの卒業を機にお声をかけて頂いて、嬉しい反面、私で務まるのだろうかと不安もありました。ですが、一緒に悩み、一緒に考え、一緒に動くことは出来る！と飛び込んでまいりました。

ココラインに来て4ヶ月が経ち、さまざまな相談がありました。連絡は来ても相談まで至らなかった事もありました。起こっている問題の他にも「誰に話して良いかわからない」「こんなこと聞いていいのかな」「信用できる人はいるのかな」「どうしていいかわからない」といろいろな思いを抱えて、また、知らない人に話すことも勇気のいる事だと思います。まずその気持ちに寄り添い、一緒に問題解決へ動くということを大切に、その積み重ねの中、何かあったらここがある。とってくれるたらなと思いついています。また、退所児童等アフターケア事業の活動を通して、18歳で社会に出て、様々な問題を抱えながら自らの力で生活基盤を築いていかなければならない現状を知りました。彼、彼女らと施設等に居る時から繋がりを持ち、「施設を退所した後、何かあったらここがある」と知ってもらう為にも活動しています。

まだまだ未熟ですが、橋山理事長、安孫子事務局長をはじめ、会員の皆様、理事の方々、関係機関の皆様にお力を借りながら、太い幹へと成長していきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

(スタッフ 岩永桃子)



若者に届ける。

ココラインでは、クレジットカードサイズに必要な情報を詰め込んだ「ココラインカード」や、専用のウェブサイト (<http://sodachinoki.org/kokoline>) を利用して、若者たちに情報を届けています。

ココラインカードには、若者に手にとってもらえるように随所に工夫を施しています。財布に入るサイズ、閉じるとポイントカードのように見える外観、漢字に降ったルビにお気づきいただけると幸いです。

ウェブサイトも、法人にご支援いただくみなさまがご覧になるページとは別に、若者たちが見やすいつくりをしています。ぜひスマホから、ご覧ください。



編集後記

前号の発行から2年半。この間に私たちが取り組んできたのは、そだちの樹を「人の集まり」から「法人」へと成長させることでした。

そだちの樹にやってくる子ども・若者は、切れ目のない、そして息の長いかわり方を必要としています。いい事業を立ち上げても、続かなければ彼らの迷惑になるだけです。自分たちができるところから、地に足をつけて事業を運用していけるように、私たちは語り合い、学び合いました。昨年4月から運用を開始したココラインは、こうした中で生まれたプロジェクトです。みなさまと一緒に、大切に、育てていきたいと思っています。

(編集委員 あびこ)